

時を越えて、歴史に出会う、伝統にふれる

奈良は国宝、古墳の宝庫です

奈良の歴史、日本の歴史とともに生きる奈良の国宝、古墳

奈良県に存在する国宝は、203件（平成21年3月現在）、古墳は全国屈指の数を誇り、全国でも有数の歴史資産の宝庫といえます。平安遷都以前は、奈良が日本の歴史の中心地であり、「いにしえの奈良の都」の歴史は、数多くの国宝、古墳に受け継がれてきました。そんな長い時代を経て今に息づく国宝と古墳をじっくり楽しみながら、国のまほろば奈良を歩いてみましょう。



(西方) 広目天
こうもくてん



(東方) 持國天
じこくてん



(南方) 増長天
ぞうちょうてん



(北方) 多聞天
たもんてん

奈良の歴史年表	
古墳時代	239 邪馬台国の卑弥呼が中国に使者を送る
	6世紀中頃 仏教伝来
飛鳥時代	607 法隆寺建立
	645 大化の革新がはじまる
	694 飛鳥京から藤原京へ都を移す
奈良時代	710 平城京に遷都する
	752 東大寺、大仏開眼供養
	759 唐招提寺建立
	768 春日大社建立
平安時代	794 都を平安京へ移す
	1972 高松塚古墳で壁画が発見
現代	1998 「古都奈良の文化財」が世界遺産に登録
	2005 「景観法」制定
	2010 平城遷都1300年を迎える

古墳時代から大和朝廷へ、そして仏教文化の開花

古墳時代には奈良盆地の豪族によって多くの古墳が造られ、大和政権の成立以降奈良は日本の中心となりました。大陸より伝來した仏教は手厚く保護され東大寺、唐招提寺をはじめとした寺院が数多く建立され、彫刻、絵画をはじめとした華麗な仏教美術が華開きました。その多くが現在も受け継がれ、国宝となっています。

歴史的景観を守る取り組み

奈良県の歴史資産は人々の暮らしに溶けこんでいます。平成17年（2005）に景観に関する初めての総合的な法律として「景観法」が施行され、それをもとに奈良県では景観条例が制定され、奈良県景観計画の策定を目指し（2009年3月現在）県をあげて歴史的景観を守る取り組みが進んでいます。

※興福寺 東金堂

国宝、特別史跡、特別名勝は文化財保護法によって国（文部科学省）が指定します

●国宝とは

有形文化財のうち、世界文化の見地から価値が高く国民の宝となるもの。建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料など。

●特別史跡、特別名勝とは

史跡名勝天然記念物のうち特に重要なものを「特別史跡」「特別名勝」に指定。貝塚、古墳、都城跡、城跡旧宅などの遺跡、庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳等の名勝など。

奈良のお宝 仏像のミニ知識

仏像は、そのお姿により大きく六種類に分類されます。奈良県では国宝・重文に指定されたその6種類の仏像が拝観できます。



如來

木造薬師如來坐像（新薬師寺）国宝



天

木造四天王立像（増長天）



菩薩

木造薬師如來坐像（新薬師寺）国宝

明王



その他



羅漢・僧形

木造薬師如來坐像（新薬師寺）国宝



木造僧形八幡神・神功皇后・仲津坐像（東大寺）国宝

参考文献：「仏像のかたちと技法 仏教美術ハンドブック1」 奈良国立博物館発行

古墳巡りをさらに楽しむために

奈良の古墳の基礎知識

奈良の古墳の特徴

我が国独自の前方後円墳は、最初に奈良盆地東南部で造されました。中には、全長が200mを超える巨大なものもあり、中国や朝鮮の影響を受けながら、強大な権力を持つようになった豪族達が作り始めたと考えられています。各地の豪族の勢力は、やがて政治勢力となり、現在の奈良県で、ヤマト政権が形成されました。そのため、奈良県には、その時代を物語る古墳が数多く存在しています。



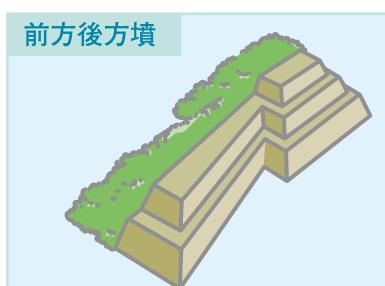
時代背景

一般的に、3世紀後半から7世紀頃までの約400年間を古墳時代と呼んでいます。日本各地を支配する豪族たちが力を増大し、その中から勢力ある奈良地方の豪族が中心となって国を造り、国土統一をおさすめた時代ともいえます。

古墳前期	3世紀後半～4世紀半ば	円墳、方墳、前方後円墳、前方後方墳など古墳の形は様々。特に奈良県では、前方後円墳がはじめて造られ、以降大王陵クラスの大型前方後円墳が集中して造されました。埋葬施設は、竪穴式石室が主流です。
古墳中期	4世紀末～5世紀末	大王陵クラスの大型前方後円墳が、奈良から河内に移りさらに巨大化し、巨大な前方後円墳が目立つようになります。5世紀後半頃に横穴式石室が出現。初期群集墳も造されました。
古墳後期 古墳終末期	6世紀～7世紀	横穴式石室がさかんに造されました。7世紀初めまでには、前方後円墳が形成されなくなり、古墳が小型化。小さな円墳が集まつた後期群集墳などが見られます。

古墳の形式

大きくは下の絵のように分類されますが、奈良県で多く見られるのは、前が方形、後ろが円形の形をした前方後円墳です。



奈良は、全国でも古墳の多い地域として知られています。背景や成り立ちなど、歴史ある奈良の古墳について知ることで、古墳巡りは、さらに興味深く楽しめるものになるでしょう。

奈良の古墳群

奈良盆地やその周辺には、古墳が密集している地域（古墳群）がたくさんあります。古墳群の規模は、様々ですが、それぞれ古墳の形態や時代背景などに特徴があり、古墳群を知ることで、当時の人々の様子や思いを紐解く面白さを味わえるでしょう。数ある古墳群の中でも、大和の三大古墳群が有名です。

大和の三大古墳群

① 佐紀盾列古墳群

佐紀丘陵の南に位置し、4世紀中頃から5世紀前半にかけて造られた巨大な前方後円墳が点在。初期ヤマト政権の王の墓である可能性が高いと考えられます。

② 大和古墳群

天理市の南部から桜井市にかけて位置し、纏向古墳群、柳本古墳群、萱生古墳群の3つの古墳群で構成されます。主に3世紀後半から造られ、その後大王墳は、佐紀盾列古墳群や古市・百舌鳥古墳群に移動してきました。

③ 馬見古墳群

4世紀から6世紀にかけて形成された古墳群。北葛城郡河合町、広陵町から大和高田市にかけての馬見丘陵周辺にひろがり、古代豪族である葛城氏の墓域との説があります。

大和の古墳群分布図



奈良盆地北部

奈良市北西部の佐紀路を中心に広がるエリア。巨大な天皇・皇后陵が連なっています。

奈良盆地東南部

天理市南部、初瀬川の西にひろがる地域。卑弥呼の墓と伝えられる箸墓古墳もあります。

奈良盆地西南部

馬見丘陵を中心にひろがり、北群、中群、南群に分類される県下でも有数な古墳群です。

明日香・南葛城地域

橿原・明日香には古墳時代終末期の墓が多く、蘇我馬子の墓と伝えられる石舞台古墳があります。

石室

竪穴式石室は、1人の被葬者しか葬ることができませんが、横穴式には開閉の入り口が造られているので、後に亡くなった家族などの遺体を共に葬ることが可能でした。後期になると急速に横穴式が増えていったようです。

